

この号の内容

- 1 新採用薬の抗インフルエンザ薬
ゾフルーザ錠について
- 2 ゾフルーザ錠
の特徴について

新採用薬の抗インフルエンザ薬 ゾフルーザ錠について

11 月に開催された薬事委員会にて抗インフルエンザ薬 ゾフルーザ錠 20mg の採用が決定しました。従来までタミフル等のノイラミダーゼ阻害薬がインフルエンザ治療に用いられてきましたが、新採用のゾフルーザ錠はキャップ依存エンドヌクレアーゼ阻害薬に分類される新機序の薬剤です。

ゾフルーザ錠の特徴として内服薬としては初めて服用回数が1回の薬剤であることが挙げられます。（タミフルは1日2回、5日間服用）そのためゾフルーザ錠は患者には飲み忘れの可能性が低く有益な薬剤とも言えますが、用量は年齢や体重により細かく規定されているため処方する際には注意が必要です。

ゾフルーザ錠の用法



12 歳未満

10kg 以上 20kg 未満	10mg 1x1
20kg 以上 40kg 未満	20mg 1x1
40kg 以上	40mg 1x1

※10kg 未満の場合、用量は規定されていません。（適応外）



12 歳以上

80kg 未満	40mg 1x1
80kg 以上	80mg 1x1

当院ではタミフル、イナビル吸入剤の予防投与目的の処方が見られるケースがありますが、ゾフルーザ錠の添付文書では予防投与について記載がありません。このためゾフルーザ錠の予防投与は安全性や予防効果について現時点で不明確であり、安易な処方は避けるべきと推察できます。抗インフルエンザ薬の予防投与が必要な場合は従来通り、タミフル、イナビル吸入剤の処方をお願いします。

ゾフルーザ錠の特徴について。

ゾフルーザ錠の第Ⅲ相臨床試験では、大人がゾフルーザ錠服用後に平熱まで解熱する時間は 24.4 時間（タミフル：24.0 時間）、またインフルエンザ罹患期間は 53.3 時間（タミフル：53.8 時間）、インフルエンザウイルスの体外排出停止期間は 24 時間（タミフル：72 時間）と報告されています。

表 V-12 20歳以上65歳未満患者におけるウイルス力価に基づくウイルス排出停止までの時間 (ITI)

	本剤群 (n = 351)	オセルタミビル群 (n = 357)
中央値 (hr) [95%信頼区間] ^{a)}	24.0 [24.0, 48.0]	72.0 [72.0, 96.0]
群間差 (hr) [95%信頼区間] ^{a, b)}	-48.0 [-72.0, -24.0]	
p 値 (層別一般化 Wilcoxon 検定) ^{b, c)}	<0.0001	

ウイルス排出停止時間が 1/3 程度に短縮

この報告よりゾフルーザ錠はタミフルと同等の効力を持ち、タミフルよりも素早くインフルエンザの感染力を弱める薬剤である事が言えます。そのため学童のような集団感染の危険性が高い患者において、ゾフルーザ錠の方がより有効的かもしれません。

しかし一方でゾフルーザ錠の使用により、ゾフルーザ耐性のウイルス株が 9.7%の確率で生じることも報告されている事より※、ゾフルーザ錠のみに偏った処方ではなく、タミフルやイナビル吸入剤のような従来通りの処方まんべんなく処方していただく必要があります。

※Baloxavir Marboxil for Uncomplicated Influenza in Adults and Adolescents N Engl J Med 2018; 379:913-923

図解 抗インフルエンザ薬の作用メカニズム

